（様式3）

事業所名　社会福祉法人大形福祉会　グループホーム大形

目標達成計画

作成日：　平成　29年　1月　21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	運営推進会議で地域の方々が気軽に立ち寄れる事業所作りのため、自治会長や地域の委員の方から、相談や助言はいただいている。しかし、地域の方々が玄関前スペースで会話する姿は見られるが、立ち寄るまでには至っていない現状も窺える。前回の調査でも改善点にあげられていたが、今後はさらに検討を進め、所属している自治会以外に近隣の自治会との意見交換の機会を設けるなど地域の方々に今まで以上に事業所を認知してもらい、気軽に立ち寄ってもらうことが出来る様工夫検討が臨まれる。	地域の方にGH大形の職員を知ってもらう。	①自治体の主催する行事に参加する。 ②GH大形が主催する行事に参加していただける様地域の茶の間や運営推進会議、自治会長に依頼し回覧板で案内を回してもらう。参加してくださった方にGH大形の案内と活動内容について説明する場を設ける。	12ヶ月
2	36	プライバシー保護を徹底していくことは、利用者の尊厳と権利を守るための基本である。今後は、日々声掛けや誘導時の言葉、職員の態度、人権擁護等を全職員で具体的に確認しあう研修が行われる事を期待したい。	利用者様の尊厳と権利を守る。	年間研修計画を立てる時に予定を入れる。プライバシー保護のマニュアルの確認を行う。利用者様の尊厳と権利とは何か？職員が利用者様を守る為にどのような行動をとればよいかを職員同士で自身の言動を振り返り話し合う機会を設ける。	12ヶ月
3	6	利用者の行動を制限しないため、個々のカンファレンスの際に話し合いがなされている様子や毎年「高齢者虐待防止」研修受講されている様子が聴き取れている。今後は全職員がマニュアルの読み合わせや具体的な身体拘束についての事例の検討、受講した研修を伝達する機会を設けることが期待される。	職員が高齢者虐待の定義がわかりその対応策をわかり行動できる。	年間研修計画を立てる時に予定を入れる。職員が高齢者虐待研修に参加し伝達研修を行う事と、虐待の種類と程度を学んだ上で事例検討を行い、職員同士で自身の言動を振り返る機会を設ける。	12ヶ月
4	7	利用者一人ひとりがその人らしく暮らしていくための想いや希望の意向を把握していくためにはアセスメントが重要と思われる。現在、事業所で使用中のセンター方式アセスメント票の記載や他の情報記載は一部分のみである。利用者の現状に合った介護計画は、情報把握とモニタリングを「継続」して行われることが望まれる。今後は、カンファレンスや日常の支援で把握した記録は、加筆をし、アセスメントを「可視化」していくことが期待される。	利用者様の個人台帳の作成と更新を行う。	職員会議で職員に個人台帳作成と更新の説明を行い、質疑応答の機会を設ける。利用者様の支援などの変更点があった場合、居室担当の職員がアセスメント表への加筆を行う。一年に一度計画作成担当者が個人台帳の更新を行う。	12ヶ月
5	26	利用者との会話は目と目を合わせ、集団レクに無理にさそわないなど、利用者の意向を確認しながら支援に努めている。今後は「高齢者虐待防止」マニュアルを作成し、定期的に職員間で日々の利用者支援を振り返り、職員のストレスチェックするシステムの構築を図ることが臨まれる。	職員のストレスチェックのシステムを構築する。	年間研修計画を立てる時に予定を入れる。高齢者虐待マニュアルを見直し職員会議で説明する機会を設ける。また職員のストレスチェックするシステムを取り入れる。	12ヶ月